



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	冠船芸能における装束と結髪および髪飾り(Review_審査要旨)
Author(s)	古波蔵, ひろみ
Citation	
Issue Date	2017-03-24
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/36686
Rights	

琉球大学大学院
人文社会科学研究科委員会 殿

博士論文審査委員会

主査 大城 学

副査 赤嶺政信

副査 豊見山和行



学位（博士）論文審査の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、学位論文の審査を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	学生氏名 古波蔵 ひろみ
人文社会科学研究科 比較地域文化専攻	主指導教員 大城 学 副指導教員 赤嶺政信・豊見山和行
成績評価	○合格 不合格
論文題目	冠船芸能における装束と結髪および髪飾りの研究
審査要旨	<p>本論文は、琉球古典芸能の原点とされる冠船芸能に焦点を当て、芸能を表現するのに不可欠な装束、結髪および髪飾りが近世から現代に至るまで、変遷してきた歴史を明らかにすることを、能楽や歌舞伎の装束等とも比較考察しながら論じている。冠船芸能の実態を明らかにするために絵図史料として「琉球人舞楽御絵巻」（1832年）、「琉球人坐楽并躍之図」（1832年）、「民俗芸能記録画集」（1936年）、文献史料は「戌年冠船躍方日記」（1838年）、『校註琉球戯曲集』（1929年）などの分析、および聞き取り調査を実施した。また、国立能楽堂所蔵の能装束を熟覧した。</p> <p>その結果、冠船芸能の装束にも能楽と同様に「キマリ」が存在し、それが能楽のキマリに沿いながらも琉球独自の選択や工夫を凝らしていることが明らかになった。結髪や髪飾りについては、琉球独自の髪型と考えられてきたが、能や歌舞伎等の大和芸能との関係性は明らかであり、その要素は細部に残されていることが解明した。</p> <p>本論文は、冠船芸能関連の絵図史料や文献史料に記載されている装束や結髪および髪飾りを分析・研究し、能楽や歌舞伎などと比較考察を行ったことによって十分な成果をあげており、琉球芸能史研究に新しい研究分野を拓いたとして、本審査委員会では博士の学位を授与せられる資格を備えていると判断した。</p>

様式第14号

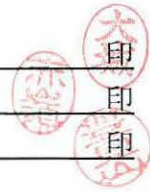
琉球大学大学院
人文社会科学研究科委員会 殿

博士論文審査委員会

主査 大城 学

副査 赤嶺政信

副査 豊見山和行



最終試験の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、最終試験を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	学生氏名 古波蔵 ひろみ
人文社会科学研究科 比較地域文化専攻	主指導教員 大城 学 副指導教員 赤嶺政信・豊見山和行
成績評価	○合格 不合格
審査要旨	<p>副査・赤嶺政信の総括のもとで、申請のあった博士論文の内容とそれに関連する授業科目について口頭による最終試験を行った。本論文題目は「冠船芸能における装束と結髪および髪飾りの研究」である。以下の3点を軸に試験を行った。</p> <p>まず、口頭試問での関連質問を行い、本論文が学位の水準に達していることを確認した。次に、本論文に関連する基礎的な専門知識や自らの論文の研究上の位置づけを問い、研究上の貢献があったことを確認した。そして、本論文で取りあげた研究分野に係る授業科目「琉球文学芸能特論」「琉球文学芸能演習」「琉球近世史学特論」「比較地域文化特論」「比較地域文化総合演習」などの視点から、学位に相応しい研究能力とその学識を有していることを確認した。</p> <p>以上の点から、本審査委員会は、本論文に加え、その分野における学位の水準に達していると認め、最終試験に合格と判断した。</p>